

一球通信 vol.146

*****コンテンツ*****

1. 春季リーグ戦 個人成績
2. 入替戦にむけて主将より
3. 広商一橋野球部 OB 懇親ゴルフ会 (S51 年卒 佐治様より)
4. 2019 年特集・広商交流 50 周年に寄せて
 - 〔1〕 OBOG より
 - 1) 坂本雅昭様 (S56 年卒)
 - 2) 犬飼一雅様 (H5 年卒)
 - 〔2〕 プレーバック交流史
 - 1) 原岡賢一郎様 (S49 年卒)

今月は 6 月 24~26 日の入替戦結果を別途配信予定でございます。そのため、通常より早く配信致しました。

1. 春季リーグ戦 個人成績

選手名	試合	打席	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	盗塁	犠打飛	四死球	三振	失策	打率	長打率	出塁率
富澤	9	48	30	9	12	0	0	1	2	8	10	2	0	0.400	0.500	0.550
青田	7	31	20	4	8	0	1	0	0	4	6	2	1	0.400	0.500	0.538
白根	9	48	35	8	12	1	0	1	1	0	12	2	0	0.343	0.457	0.511
木村	9	48	38	4	13	1	0	1	1	4	6	5	0	0.342	0.447	0.432
阿部	6	31	30	7	10	0	0	1	2	0	1	4	0	0.333	0.433	0.355
高崎	9	41	33	16	9	1	0	0	1	1	7	3	3	0.273	0.303	0.400
江角	9	45	38	4	10	1	1	0	0	2	5	7	1	0.263	0.342	0.349
阿佐美	9	51	34	8	8	3	1	0	1	6	11	5	0	0.235	0.38235	0.422
大北	6	27	19	1	5	2	0	0	3	5	6	2	0	0.263	0.36842	0.44
綾野	4	20	15	4	2	0	0	0	0	2	3	2	0	0.133	0.13333	0.278
佐藤	3	18	14	3	3	0	0	1	0	0	4	3	0	0.214	0.42857	0.389
草ヶ谷	2	13	8	3	3	0	1	0	0	3	2	2	2	0.375	0.625	0.5
飯坂	3	3	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0.5
酒井	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0

選手名	試合	完投	勝利	敗戦	投球回	打者	被安打	与四死球	奪三振	失点	自責点	防御率	勝率
木下	9	0	4	0	46 1/3	208	27	45	54	19	15	2.17	1.00
佐藤	4	0	1	0	19	74	11	10	12	8	8	2.95	1.00
鈴木	7	0	2	1	16 2/3	77	20	7	9	13	12	5.04	0.50
綾野	1	0	0	1	2	8	3	1	0	2	2	7.00	0.00
亀山	1	0	0	0	1	4	1	0	0	0	0	0.00	0.00

最高殊勲選手：富澤拓哉（3年）

最優秀投手：木下滉平（4年）

東都大学野球連盟が決定する、4部最高殊勲選手・最優秀投手に上記2名が選ばれました。

2. 入替戦にむけて主将より

いつもお世話になっております。主将の大北です。今回の入替戦で私たち4年生は6回目の神宮となりました。ほとんど毎シーズン戦っている舞台ですが、いざ本番となるとやはり緊張感が付きまとい、なかなか普段のプレーができないのが入替戦だと感じています。ですが、私たちにとっては3部の舞台で野球をする最後のチャンスとなります。泥臭くとも最後の整列の瞬間に笑ってられるようチーム一丸となって戦います。お時間ございましたら是非神宮球場にお越しください。

3. 広商一橋野球部 OB 懇親ゴルフ会

広商野球部 OB との懇親ゴルフ会（畠山会）のご報告

5月19日（日）南茂原カントリークラブで恒例の広商野球部 OB との懇親ゴルフ会が開催されました。当日は暑すぎず寒すぎずの絶好のゴルフ日和で、広商 OB 3名、一橋 OB 5名の計8名が2組に分かれてプレーしました。

優勝の栄冠はベストグロス賞も獲得した広商の田所康弘さん、300ヤードの飛距離を武器にグロス82で堂々の優勝でした。2位、3位は一橋の竹内昇さん、今井鉄郎さんでした。

本会は広商野球部との交流の端緒となった、広商の故畠山圭司先生（2006年4月ご逝去）から初めて野球を教わった一橋のメンバー（昭和45～48年卒）により先生を囲むゴルフ会としてスタートしたものです。その後広商の方々の参加も得て回を重ね、2000年以降は毎年この時期に開催し、OB 同士の親睦を図っています。

今回は参加者が少なかったですが、ホールアウト後の懇親会では、現役諸君の交流を更に意義深いものにするのにどうしたらよいかなど意見の交換を行いました。来年以降も多くの方々参加をお待ちしています。

参加者（敬称略、カッコ内は卒業年）

広商：濱田（S47）、大城、田所（S49）

一橋：町田（S46）、今井、竹内（S48）、佐治（S51）、高橋（S52）

文責 佐治（S51）

.....

2019年特集・広商交流50周年に寄せて

〔3〕 OBOG より

- 1) 坂本雅昭様 (S56年卒)
- 2) 犬飼一雅様 (H5年卒)

〔4〕 プレーバック交流史

- 1) 原岡賢一郎様 (S49年卒)

.....

広商野球部との思い出

S56年卒 坂本雅昭

昭和52年夏から昭和55年夏まで夏4回、冬3回計7回もお世話になった。

畠山先生に「野球」を、桑原監督に「技術」を教えていただいたが、広商78期主将で現広島カープ二軍外野守備走塁コーチの永田君も広商の野球はプロでも通用すると言っていたその「広商野球」を学べたことは自分の学生生活でも最大の財産となった。就職試験の面接でも「広商との交流」を積極的にアピールし、学業の話題は極力回避し、無事就職試験を突破した。「貴方はボールから目を離さず、喰いついて行っているけど、もっと腕力をつけにゃあいけんよ」「腹をボールにぶつける感覚で上から叩き、しっかり腰を回転させ、ミートしたあとは目一杯振り切って、腹を突き出すんじゃ」と畠山先生や桑原監督から教えられたバッティングは子供の少年野球チームの打撃指導でも活用させていただいた。

練習後の勉強会は昭和52年冬、53年冬とも広商78期の方々を担当させていただき、最もご縁の深い期となった。一球通信145号に掲載された金光さんの寄稿文にもあったが、私が結婚式に出席させていただいたのが一塁手の正伝君と中堅手南崎君。私の結婚式に来てくれたのが畠山先生、正伝君、南崎君、マネージャーの東久保君。永田コーチからは祝電を頂戴した。

写真は、私の二年冬の広商合宿時の写真。

左上は広島駅で見送りにきてくれた広商77期の山本君 安藤君、後藤君、竹本君と私。山本君宅には57年卒の白井君、安藤君宅には岩井君、後藤君宅には深貝君、竹本君宅には山谷君がホームステイでお世話になった。山本君と後藤君は浪人中、わが野球部の練習にも参加してくれた。右上は78期永田主将とのツーショット。一軍の外野守備走塁コーチ時代は神宮、東京ドーム、横浜スタジアムでゲームのあるときには何回か会食する機会をいただい

た。かつて取引先の銀行から神宮の一塁側最前列のチケットを入手して球場に行ったところ、一塁コーチスボックスの真後ろであり、永田コーチもすぐ気が付いてくれたが、声をかけるとスパイ行為を疑われて迷惑がかかるので、お互いに目で挨拶した。今は二軍で若手の育成に尽力されているが、永田コーチに鍛えられた鈴木誠也、西川、野間等々が一軍で活躍しているのを見ると嬉しくなる。

左下は元旦の宮島の頂上でJR西日本野球部元監督の南崎君と。南崎君は畠山先生によれば、広商ナンバーワンの中堅手（ソフトバンク柳田のブレイク前）だが、元旦早朝の宮島を日の出前にダッシュで駆け上がり、二人とも疲れ切っているところ。南崎君とは今でも親交があり、お互いの出張時には会食している。

右下は元旦の宮島に向かう船中で、前列左から 77 期マネージャー生塩君、沖田君、山下君、本石君。後列が左から 57 年卒の白井君、私、岩井君。



10 年くらい前になるが、当時永田コーチは一軍の一塁ランナーコーチ。東京におけるカープの常宿、品川プリンスホテルの近くの寿司屋で現在の高ヘッドコーチを交え会食したときのこと。

監督はブラウンで初回トップバッター東出がヒットで無死一塁、二番梵でカウントはノー

スリー。永田コーチから「坂本さんならサインはどうされますか」と質問され、私は「送りバントの構えでウェイティング」と答えたところ、永田コーチ曰く「ブラウンの出したサインはなんとヒットエンドラン。それも流して走者を進めるエンドランではなく、引っ張って長打を狙え。それが見事にあたって、梵は左中間を抜き、一点とったが、あの采配には驚いた。ランナーコーチがそわそわすると何か奇策のサインが出たとばれるので、三塁コーチの高コーチとともに平静をよそおうのがたいへんだった。外人監督は考え方が違う」という興味深い話を聞かせてもらった。また、最近ドラフトにかかってプロに入ってくる選手でも長打を打って、ボールから目を切って塁上でガッツポーズする奴がいる。走塁の基本から叩きなおさないといけないとも言っていた。ちなみにガッツポーズは当時の広商では御法度。

東京ドームで巨人戦を息子、甥ら親戚一同で観戦したときのこと。試合前練習で永田コーチがレフトの定位置でポジションニングをとる当時現役の前田智徳選手に個人ノックを打っていたが、レフト線、左中間、フェンス際の、とれるかとれないかのギリギリのところには本当にうまく打っていた。「みんな見てみろ。前田がとれるギリギリのところには打っているだろう。あれがプロのノックなんだ。そしてノッカーは俺の友人だ」と自慢させてもらった。もっとも後日永田コーチに聞いたら、「前田は難しい打球を打たないと取ってくれない。イージーフライを打とうもんならわざとバンザイするから前田のノックは大変なんです」とのことだった。

畠山先生とは平成15年6月に如水会館でお会いしたのが最後となったが、平成24年の偲ぶ会に出席させていただいた時に小川先輩、木村先輩とお墓参りをさせて頂いた。この3月にも私の母校が久々に選抜大会に出場したこともあり、宮島大聖院弥山への必勝祈願と合わせてお墓参りをしてきた。広島に行かれることがあれば、広島市中区猫屋町5-6明教寺に先生は永眠されているので、お参りに行かれてはいかがでしょうか。広島駅前のホテルグランヴィア広島には78期中岡君が勤務されている。私は常宿とさせて頂いており、広島に行かれる方は是非ご利用頂ければと思う。また、広島市中区袋町7-26 袋町水岡ビル2F&3F「四季や袋町店」は77期坂本龍起君が経営されていて非常においしい広島の郷土料理を楽しませてくれる。合わせてご利用いただければと思う。

広商野球部も春季大会で久々に優勝したようで、この夏大いに期待できる。かねてより甲子園出場が叶えば、広商野球部OBの方々とは甲子園でお会いする約束になっており、甲子園での再会を楽しみにしている。

思い出のホームステイ

H5年卒 犬飼 一雅

広商合宿＝辛い練習、というイメージが真っ先に思い浮かびますが、私は生徒のご自宅にホームステイさせていただいたことが、とても良い思い出として残っています。

この度、一橋と広商との交流50周年にあたり、私からはホームステイでの生活をご紹介しますと思います。

12月下旬から始まった広商合宿。我々1年生部員と当時の主将（菊池さん）が広島駅に到着すると、その日から2週間のホームステイ先となる、広商生のご父兄の方々が待っていました。ご父兄からは、「ウチの子になるのは誰かな～（笑）」なんて声も。まるで自分は養子になるかのような、そんなことを思わせるような出会いだったことを憶えています。

私がお世話になったのは、広商野球部2年で捕手の秋山政徳さんのご家族。秋山さんは、私のことを「犬」とあだ名で呼ぶなど、半ば友達？のような関係。お父さまは警察官、しかもその筋の仕事をされていた方でしたので、とってもゴツつくて、おっかない外見ですが、とても心優しい方。毎日たくさんのご馳走を用意してくださり、気を遣っていただいたお母さま、そして、受験を控えた中学3年生の弟さんの4人家族でした。

言うまでもなく、一橋の野球部員にとっては、広商の練習は簡単についていける内容ではありません。冬場ですから、筋トレや走り込みなど基礎トレーニング中心。今の現役の皆さんも恐らくそうでしょうが、初日の練習を終えると、すぐに筋肉痛になり、練習が終わって、ホームステイ先に戻る頃には、毎日ヘトヘト。帰宅後、すぐに入る風呂は至福のひと時でした…

しかし、そこからが大変！風呂からあがると、食卓にはたくさんのご馳走とともに、大瓶のビールが2本、ドンと置いてあります！それも毎晩。とても気の利くお母様でした…

まだ、お酒の美味しさが分からない大学生にとっては、「は一、ビールが美味しい！」なんて感じるわけがありません。ましてや、練習による疲れ、そして、食べ盛りの大学生にとっては、お酒ではなく、真っ先に「米」にありつきたかったのですが、警察官のお父さまを前に、居候の身である私から、そんなことを言い出す勇氣はとてありませんでした。

お父さまとの晩酌タイム。ご家族のお話、また、警察官のお仕事のお話など、貴重なお話をいくつも聞きすることができ、社会勉強にもなりましたが、やはり練習の疲れには勝てません。お酒の回りが早く、すぐに眠くなっていました。

晩酌が終わり、待ちに待ったべのご飯に漸くありつけ、お腹も満たされたところで、落ち着く間もなく、次は弟さんの家庭教師。受験生であった弟さんは広商への進学を希望しており、私はお母さまより「家庭教師をして欲しい」と言われ、ほぼ毎日勉強を見ていました。体力的には限界に近づきつつも、英語や数学を教えていました。その後、広商に見事合格されたところのご連絡をご両親さまから頂戴した時には、ある意味ホッとしました。

こう書きますと、ホームステイ先での生活はとても辛そうに映ってしまいますが、確かに体力的には厳しかったのは事実です。しかしながら、温かいご家族に迎えて頂き、すぐに打ち解け、次第にととても居心地よくなり、楽しく過ごさせていただきました。最終日に帰京する際に、お母さまが涙を流して別れを惜しんでくれたのが印象的です。次の冬には、広島特産の牡蠣をたくさん実家に送っていただきました。

現在の一橋と広商の交流では、ホームステイ型の合宿は行っていないようで、個人的にはやや残念に感じるころはありますが、私にとっては、広商でのホームステイは自分を人間的に一回り成長させてくれた貴重な財産と思っております。

一方、私たち一橋大生を受け入れる広商のご家族にとっては、2週間もの長期間、ご自宅への宿泊、食事、ユニフォームの洗濯など、さぞかしご負担をお掛けしたものと推察いたします。改めて、この場を借りまして、ホームステイを受け入れたご家族の皆さま、当時、熱心に野球のご指導をいただいた金光監督をはじめとした関係者の方々、そして、一橋と広商の長年の交流に感謝申し上げます。



以上

<東の間の休日でのワンショット。宮島へ向かう観光船乗り場にて。
左より、八木、矢澤、栗原、小松、犬飼、山本>

我が人生に広商野球ありき

原岡賢一郎 (旧 健一郎)

(昭和49年一橋大学商学部卒・都立戸山高校出身) 就職先：野村証券、フジテレビを経て現在SMEグループ・マネージメント、来広当時の広商野球部：畠山部長・迫田監督・金光主将



私の大学の卒業論文のあとがきには通常書くであろうゼミナールの思い出など一切触れず、大学時代野球をやり通して何を得心かについて記されている。それ程私にとっての野球部の生活が大きく、その後の生き方・考え方の基本になったと言え、それは広商野球部との交流抜きにはあり得ない。

入学した昭和45年の夏初めて部全員で広島遠征をした。一年生でまだレギュラーでもない私はショックを受けた。広商グラウンドに訪れた瞬間の張りつめた空気。こんなにも野球で緊張感があるとは！そしてグラウンドでは、ずっと年下の高校一年生までが何と大人に見えたことか！

レギュラーになるのが遅かった私を支えたのは広商野球を経験して名ショートになった先輩の励ましと、私自身の一年生の時からの広商野球の存在だった。頭で考えすぎるきらいのあった私が「馬鹿」になり「一球入魂」を生活全てに追求した結果、レギュラーとなり主将になった。私の中で広商に恩返しをしたい気持ちが強くなった。自ら手を挙げて昭和47年末から48年初頭の一ヶ月間、48年卒の斉藤力君のお宅に居候して早大受験の手伝いをした。私は広商新チーム(金光主将)の練習に夕刻まで参加し夕食後夜明けま

で斉藤君の勉強を手伝い就寝、彼は寝ずに登校し帰宅後夕食まで就寝という毎日だった。互いの息抜きはボウリング。自分にも負荷をかける為私は大州から広商まで自転車で通った。練習後疲れた体で帰路、平和公園噴水前でパンを頬張り合格を願ったのが懐しい。目標に向かって努力する彼の姿勢は広商野球そのものであり、しかも焦りの無い「大人」を感じさせた。彼は余裕をもって早大に合格した。

48年私の主将時代、当然の様に8月広商遠征をしたが、金光主将のチームは甲子園で勝ち進んでいた。私は先に甲子園に入り応援、宿舎を訪ねて激励した。準決勝を前にした部員に私はまた「大人」を感じた。兄弟交流ということで記者に取材されたが「焦りが無い。安心した。」と答えて優勝を予感したのを鮮明に覚えている。

野球、勉強、仕事、どれも一つの事に真摯に取り組む姿勢が人間を形成していくことを私は広商野球との交流で学ばせて戴いた。県立高校と国立大学という公立校同士であることも誇りである。天性のみに頼らず限られた環境の中で極めていくことの難しさを知り、克服していく過程でこそ人間の真摯な姿が見えてくる気がするのである。広商野球部100年、一橋野球部75年、両部交流は30年を越えて続く…。(原岡 記)

今月も最後まで一球通信を読んで頂き、ありがとうございます。

いよいよ入替戦となりました。一橋野球部に所属して1年ですが、早くも私にとって3回目の入替戦となります。これからも経験回数は増えるかもしれませんが、何回目であってもいつもとは少し異なるベンチの雰囲気緊張します。3部で戦う選手の姿が見られるよう、マネージャー含め一丸となって戦っていかれたらと思います。ぜひ神宮球場にてご声援頂けますと幸いです。ご声援のほど宜しくお願い致します。

入替戦日程：6月24日(月) 成蹊大 VS 一橋大 9:00～

6月25日(火) 一橋大 VS 成蹊大 10:00～

一橋大学硬式野球部

2年マネージャー 浅川彩音
